

鉄道貨物輸送における偏積対策に関する検討について(中間とりまとめ概要)

現状と背景

脱線事故原因

運輸安全委員会より、平成24年4月26日に江差線で発生した脱線事故の主な原因は積荷の偏積であると報告。

事故調査報告書公表後

JR貨物の重量計による測定で一部のコンテナで偏積を確認。

→ 「鉄道貨物輸送における偏積対策に関する検討会」において検討

偏積対策の基本的考え方

関係者の対策と相互連携

偏積問題については、JR貨物、利用運送事業者がそれぞれできる限りの対策を取ること、また、相互に連携することが重要である。

課題

JR貨物

コンテナ内の確認

コンテナは封印されているため、JR貨物がコンテナ内の積付けの状況を確認できない。

膨大なコンテナの取扱い

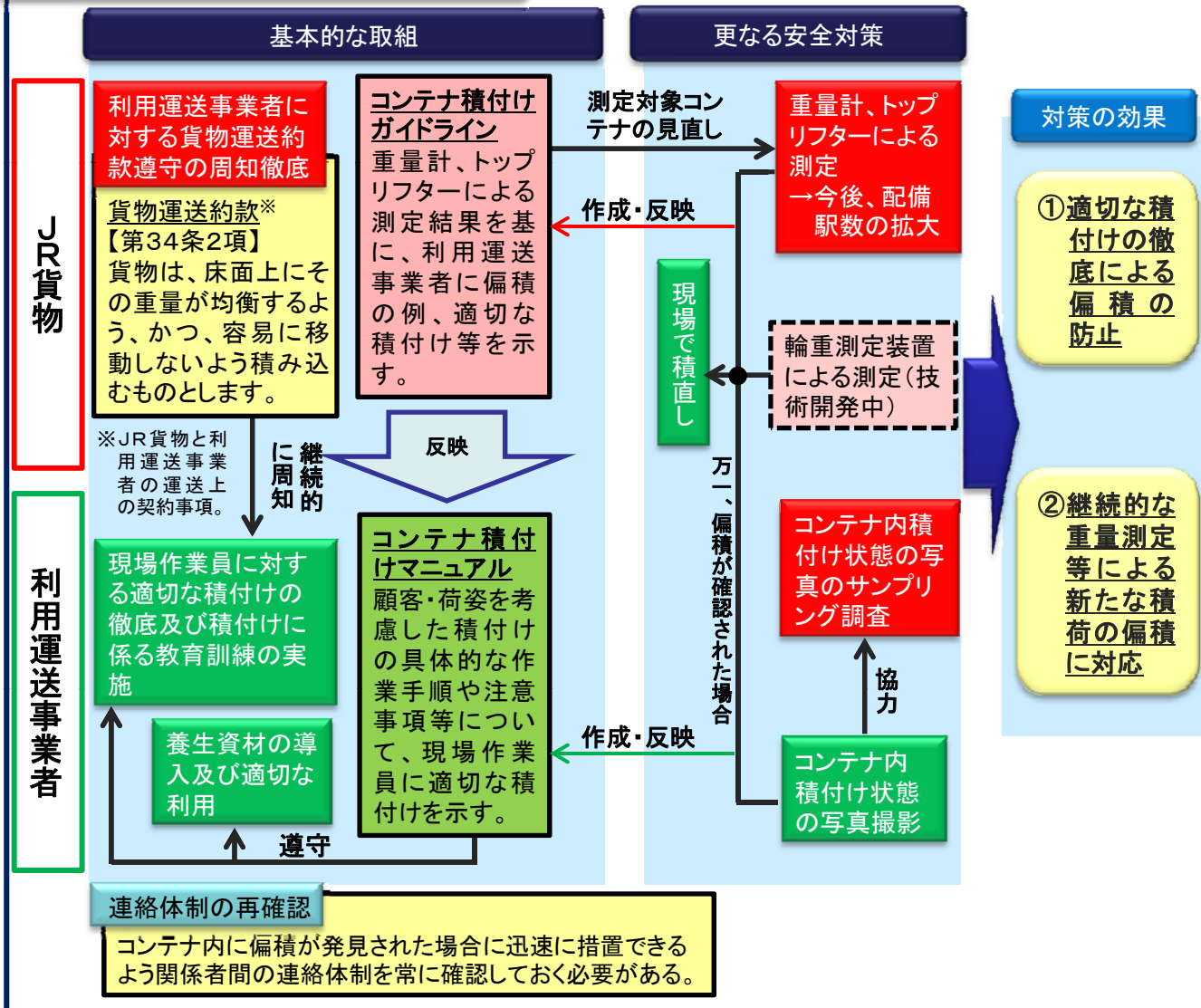
取り扱うコンテナ数が膨大であるため、全コンテナの重量測定は現実的ではない。

利用運送事業者

積付け方の周知

鉄道貨物輸送において、偏積が発生しない適切な積付け方が現場作業員に周知されていない。

偏積対策に向けた具体的取組み



今後の対応

運輸安全委員会による事故調査や、輪重測定装置の技術開発の状況等を踏まえ、検討会を開催することとする。

輪重測定装置は、技術開発が終了した後、順次整備していく。